

中学生を対象に「災害図上訓練」を実施 (自らの目で地域の弱点を発見)

川崎市中原消防署

1 はじめに

川崎市は神奈川県北東部に位置し、南北を東京都と横浜市に隣接し、西は多摩丘陵地帯をひかえ、東は東京湾に臨んでいます。市域は多摩川に沿って東西に細長い地形をなし、北西部の一部丘陵地を除いて起伏が少なく、神奈川県下でも比較的平坦な地域となっています。

このように川崎市は、自然的、地理的条件あるいは市域を分断する形で通過している鉄道、道路網とあまって京浜工業地帯の中核である南東部（臨海部）と、北西部（内陸部、丘陵部）住宅地という性格の異なった地域の結合により都市が形成されています。

そのうち中原消防署が管轄区域とする中原区は、川崎市の中央部に位置し、区域の大部分は多摩川に抱かれた平坦部であり、県下でも有数の品質を誇るパンジーの生産で知られています。

さらに、本年3月には区のほぼ中央に位置するJR南武線の武蔵小杉駅に接続した、JR横須賀線の武蔵小杉駅が開業し、南武線から新宿・池袋・成田空港方面や横浜・鎌倉・伊豆方面への乗換えがとて便利になり、これまでの東急東横線・東急目黒線との乗換えともあわせ、新たな交通拠点として生まれ変わりました。そして、この武蔵小杉

駅を中心に超高層マンションが多数建設され、激しい都市化が進んでおり、市内でも最も人口の多い区となっています。

2 中学生を対象にした災害図上訓練(DIG)について

中原消防署では、地元の中原消防団と協力して、平成21年度から川崎市内初の試みとして、区内の中学生を対象にした災害図上訓練(DIG)を実施しましたので、その概要について御紹介いたします。

この災害図上訓練、「DIG」とは、Disaster(災害) Imagination(想像) Game(ゲーム)の略で、英語の動詞の「dig」〔掘り起こす、探求する、理解する〕にも意味をかけているそうです。

DIGは、自衛隊の演習方式を活用して、1997年に三重県消防防災課に勤務していた平野昌氏と防衛庁防衛研究所に勤務していた小村隆史氏(現富士常葉大学環境防災学部助教授)、三重県在住の防災ボランティアとの出会いの中から生まれ、その後、DIGも修正を重ね、地域防災力の向上を図る上で、より実践的で効果的な手法となりました。

一般的な訓練内容としては、自分たちの住むまちの白地図を囲み、町のつくり、災害に対し強いところ、弱いところ、地域の防災資源など、訓練

の参加者たちが意見を出し合い、色塗りをしながら認知し、地域の課題や災害に立ち向かう手段を地図上から検討するものであり、訓練参加対象によっては、同じ地域の方とのコミュニケーションも図れることから、「災害を知る、地域を知る、人を知る!」というキャッチコピーが、ズバリ当てはまると思います。

中原消防署では、中学生が昼間人口に占める割合が高いことに着目し、昼間の大規模災害発生時における防災活動において、即戦力として期待の持てる『中学生』に防災意識を高めてもらうこと

と、次世代の防災リーダー育成を目的として、中学生を対象にしたDIGを実施することとしました。

訓練を指導する際に必要な知識・要領を習得するため、署員と消防団員を対象にした研修会を行って、指導員を養成するとともに、訓練に使用する各中学校の通学区図や各種資料の作成、指導方法を何度もシミュレーションし、検討を重ね消防署と消防団が一丸となって120%の準備体制を整え、平成21年度のモデル校として、次の2校を対象に実施しました。



(今井中学校でのDIG風景)



【実施日等】

○ 平成22年1月22日（金）

市立住吉中学校 参加者：181人

〔2年生110人、教諭5人、自主防災組織等20人、
区役所2人、消防団員20人、消防職員24人〕

○ 平成22年1月25日（月）・29日（金）

市立今井中学校 参加者：各日130人

〔2年生68人、教諭6人、自主防災組織等14人、
区役所2人、消防団員16人、消防職員24人〕

1月22日、初めての事で誰もが不安と緊張に包まれた雰囲気の中、いざ訓練が始まると、今まで準備を積み重ねてきた自信と消防職員持ち前の巧みな話術により、指導者の消防職員、中学生、自主防災組織等、消防団員で構成される各班に別れ、ワイワイガヤガヤと言い合う輪が出来、用意した中学校の通学区の地図の中に、次々と鉄道、主要道路、河川や災害時用援護者が居住する場所等を書き込み、完成した地図を見ながら『大人がいない時間に大地震が襲った時に、ご近所に声をかけ



（ワイワイガヤガヤ！みんな真剣です）



(住吉中学校でのDIG風景)

で一時的に避難する場所はどこか、その後広域避難場所まで行く際に、どの道を通るのが安全か』『日頃から何を準備し、どのような対策をするべきか』を真剣に検討していました。参加した中学生からは、「区内を縦に通る道路はあるけど、横は少ないね」「意外と地形を知らなかった」「家族と落ち合う場所を決めよう」「地区内には消防署(所)が1つもないね」など自らが作業したからこそ知り得たことがたくさんあり、それらは、講

義に比べより強く印象に残っているようでした。

訓練の締めくくりに、進行役の職員から「大地震が起こった時、あなたたちの若い力、想像力が必要なのです。一緒にがんばりましょう!」という熱い思いの言葉を送りましたが、一人でも多くの生徒たちが何かを感じ、行動し、災害時の減災に繋がる行動を地域住民と共に行ってくださることを、指導を担当した職団員一同、切に願っています。



3 おわりに

平成21年度はモデル校として市立中学2校で実施しましたが、平成22年度は中原区内の全中学校で実施する計画で準備を進めており、職団員もさらなる指導能力向上のため日々研鑽に努めており

ます。さらに今後は、この訓練の対象を区内の町内会や自主防災組織、そして企業にも広げて行きたいと考えており、この訓練によって、少しでも地域の防災対応力の向上に繋がれば幸であると考えています。

